



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 12月号

令和4年11月30日

横浜市立青木小学校

「主体的な学び」

副校長 神田 記子

先日、柔道男子日本代表監督の鈴木桂治さんと、横浜国立大学教育学部部長（2016リオデジャネイロ五輪柔道日本代表チームリーダー）の木村昌彦さんの対談を聞く機会がありました。木村さんが鈴木さんに質問しながら様々な話を聞いていく形でしたが、日本チャンピオン4回、世界選手権3階級制覇、そしてアテネオリンピック金メダルと、日本と世界のトップを極めた方の話に引き込まれ、あっという間の90分でした。

その中ではっとさせられたのは、鈴木さんの恩師、斉藤仁さんとのエピソードでした。

鈴木桂治さんは国士舘大学在学中に、「鬼の斉藤」と呼ばれるほど怖い監督であった斉藤さんにマンツーマンで指導を受けていたそうです。鈴木さんは、夕食や夜のトレーニングの後に行われる二人だけの練習を、「今日も呼ばれるのか、いつまで続くのか。」と思いながらやっていた自分が「だめ」なのではないか、と気付いたというのです。

とにかく「強くなりたい」と思っていた鈴木さんは、「自分がいやいや受けている練習では、ちゃんと気持ちを入れて話を聞いていなかった。」と反省し、次の日から柔道着を持って監督より先に練習場に行くようにしました。すると、そこに来た斉藤さんが一瞬驚いたような顔をしたものの、いつものように練習を始めました。しかし鈴木さんには、斉藤さんの教え方も本気になった、と感じたそうです。

鈴木さん曰く、「教えを受ける側が教える側を本気にすることがある。」自分がまさに『主体的』になったときに、柔道に対する自分の姿勢が変わり、本気の指導者の言葉を真剣に受けられるようになった、そこから2004年のアテネオリンピックへと続いていったそうです。

「主体的な学び」の実現は、学習指導要領の中でも重要視されており、本校の教育の中でも目指しているものです。そのために、自分たちの課題ややりたいことに本気で向かい合う場面を作り、どうすれば目標を達成できるかを自分で（みんなで）考え、粘り強く取り組む経験ができるようにしたいと考えています。まさに今、青木フェスティバルに向けての取組みが、そんな場面になっています。

毎年積み重ねてきた学びは、高学年の児童に着実に育ちとなって身に付いてきました。今年も各クラスが熱い思いで、どんな発表にしようか真剣に取り組んでいます。子どもたちが輝く「青木フェスティバル」。さらなる子どもたちの成長の姿を、全教職員で応援していきます。